

此頃のあそび

東京市麴町區番町小學校附屬幼稚園 檜 山 京

五六

凧あげ

生地のままで買った凧に幼児自身で繪を描いたもの、繪の描き易いミいふ點から角凧にする。紙テープを、長い方がいゝ云ふ幼児の望で二メートル位の尾にする。五百坪からある本校々庭は、朝九時から十時半頃まで半面は十分の遊び時間を除いては暖い陽をあびて廣々ミしてゐる。

幸今年は寒さが強くないので毎朝この本校々庭で凧あげがはじまる、三階の窓位の高さにあがる凧の糸を持つて上を見いゝ走るゝ、三四回も運動場をかけ廻つて來た子の頭からは湯氣がたつてゐる、汗を拭つてセーターを脱がせて、其間も子供の心は空に行てゐるらしい。凧は、あけ手も多いし、校庭には立樹もあるのど忽ち名譽の負傷をすゝる、「先生やぶけた」ミ初めのうちこそ助力を求めた子等もあまりしげゝなのでしまひには、いくつでも自分で傷を

繕ひ繕ひしてあける。一人に一枚つゝミいふ程十分でない凧は自然代りあつて、あけ手になつたり助手になつたりしてゐる。紙の負傷は繕へるがしまひには骨が折れる、けれど「骨なんか折れてゐてもあがる」云つて持つて行つてしまふ。なるほぎ引き凧程度には少し位折れてゐても差支ないらしい。

十枚の凧が一日でかなりな負傷をしてしまつた。けれど汚れたり繕つてあつても、よくあがる凧は子供から望まれて、次の日も又次の日も。

ミうゝ一週の終りにあまりひさくなつたので、西の内（日本紙）をそのまゝミ半折に切つたのミ大小にして又幼児に描いてもらつた。骨は大人がつけて、大分しつかりした凧が出來上た。やつぱし紙テープの尾をつけて今度は丈夫だらうミあけるミ、何の具合かあまりよくあがらない。ぢきにメンクラウ。それでも子等は「大丈夫あけられる」云つ

ていろく、工風をしてゐる。西の内は紙がよすぎて重くなるので三錢風にかなはないらしい。三度目に今度は風を作るよりあける方が主なので出来てゐる風の丈夫なのを買ふ事にした。お正月になるともう無地の風はないので繪風を商人にたのんだ。今に來たら立樹のない屋上へ行つてあけるのを樂しみにしてゐる。

獨樂

昔からある麻ひもを巻いて廻す獨樂、それはよく廻るし幼い力にも廻せるけれど幼稚園の様に多人數で遊ぶせまい處には危険がある。木に金が著いてゐるので慣れぬうちは友達にあたるまいけない。デパートの玩具部へ行つたら金の様に見えて厚い木に著色したのがあつたので丁度よし、麻ひもを巻いて試した所さうもよい工合に行かない。幼年時に獨樂を廻した経験のない私達には、廻すことが解らないで困つた、これは昨年事になるが本校の先生や給仕さんに教はつて、子供達が歸つてからコマ廻しの練習をした。けれど結局金であるべき部分を木にしたコマは上手な人がしてもよく廻らないさ、いふので試しに求めた少數のだけにした。今年は恩物コマさ、いふの、大形のを使つた、年

の小さい子にも大きい子にも自由に廻せるし大型なのであまり紛失もせず整理の都合もよく皆から喜ばれてゐる。

室でコマの廻しくらをしてゐた男兒數人、元氣のいゝM君、一心に黄色ッ、しつかりッ、しつかりッ、ヤッアウト」
「君、今のはHちゃんのが初おくれたんだからドロン勝負だよ」。二十年前の幼兒も三十年前の幼兒もコマに興じた事は同じでも此會話は將に昭和七年産であると感じた。私がつきり記憶してゐる言葉で、今からやがて三十年程前になるが五歳になるコマの大好きな男の子は「ゲンススイコママワシ、ツナワタリーッ」云つた。尤もこれは紺緋の羽織ミ着物、下駄ばきで井戸ばたの裏庭。前者は水兵服やセーターの園兒の群コンクリートの室の中である。

コマには旗の彩色ある旗コマ、手製の豆コマなど喜ばれますが損じたり小さい爲に紛失したりし易く、大正ゴマミいふウナリを立てるのもありますが細い糸がまきついで工合が悪くなり易く長つゞきがしません。前に述べました大型のはいつまでもよろこばれ遊び方は幼兒の方で色々工風をして居ります、女兒だ、(女兒のみには限りませんが)滑臺の上で廻す廻りながらコマが下りるので大層興

がつてゐます、又コマの上にボール紙や色がみ、廣告紙を穴をあけてのせたり。コマだけでさかしまにして傘だまかキノコだまか、それが斜に廻るのをみてミソスリだま云つてわざと斜にさかしまにまわる様に練習したりしてゐます。

メンコ

殆毎年の事の様に思ひますが冬の初から一、二月へかけて路傍の遊の延長かと思はれるメンコといふ遊びが、はやります、それで昨年一學期末の家庭通信に次の様な事を記しました。

『一人で各自』紙片を床にたたきつけて、相手の紙片がひつくりかへれば、ひつくりかへした方が勝になつて相手の紙片をさる、メンコといふ遊びが十一月半頃から幼児達の間は大層興味をもたれて居ります。床の上の紙片がひつくりかへる事、其結果自分のものが多くなる事、この二つ殊に前の「ひつくりかへす」事に多大の興味（そこには力ミ一種のコツが要る様です）が持たれ殆ど男兒のみによるこばれてゐます。此遊びの缺點は床にたたきつける爲に紙片が汚れ自然手が不潔になる事、下を向いてばかり居る事です、勝負の終つたあはは、こつたのも、こられたのも一緒

に箱にしまひますから慾ばる事はないと思ひますが、それ故園では今の處、不用のボール紙や他の紙片で自分で剪つたり折つたりして作る事は止めませんが、店で買つたりお家から持て来る事はかく止めてあります。なほ一月からは凧あげ、カルタ、コマ等へ興味をむけてなるべく自然に此遊びを變へる事が出来る様に希つて居ります。』

前にあけた、凧、コマ、他にカルタ、オハジキ、羽根、風船、ビルダ等の玩具を出して無言にメンコを止める様努力しましたが下もえの草の様に、何か手頃の紙片があるミさうもはじまりさうなので明かに「お正月からメンコは止ませう」ミいふ事にしました、そして八日以來今日までまづ計畫通りになり、其中年長兒は製作慾も盛になつて來たり凧あげや、コマ、暖い爲でかくれん坊、かけふみなミ運動型のおそびの方へ向いて居ますが、土曜日フト又メンコをし度いらしい様子を見ました。私ミしてはやつぱりカルタ、動物あはせ、旗あはせ等他の遊びへ向はせ様ミ思ふのですが、何か他によい方法がございましたらさうぞおをしへ下さいませ。それミもメンコがかように興がられるのは私の所だけなのでございませうか。（一月二十四日）